

令和3年度第1回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和3年8月5日（木） 19時00分から21時00分まで
2. 場 所 市民交流棟 2階会議室
3. 出席者 (委員) 前田 眞、青木 ルリ、福濱 りか、山川 和子、横内 博之  
坂上 京子、横内 薫  
(事務局) 地域振興課長 高橋 博俊、  
井原 広一、菊池 花乃  
ボランティア市民活動センター 所長 藤原 雅秀
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容

【委嘱式】

1. 委嘱状交付
2. 市長挨拶
3. 委員自己紹介

【資料①】

【協議会】

1. 開会
2. 会長・副会長選任
3. 議事
  - (1) ボランティア市民活動推進協議会について
  - (2) ボランティアセンター令和3年度事業計画について
  - (3) SNSを活用した情報発信について
  - (4) その他
4. 閉会

【資料②③】

【資料④】

【資料⑤】

6. 会議録

発言者	発言内容
課長	<p><b>【委嘱式】</b></p> <p>只今よりボランティア市民活動推進協議会委員の委嘱式を開会する。</p> <p>開会</p>
市長	<p>1. 委嘱状交付 (交付は名簿順)</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <p>(市長及び市民部長退席)</p>
	<p><b>【協議会】</b></p> <p>(事務局自己紹介)</p> <p>2. 会長・副会長選任</p>
会長	<p>会長と副会長の選任につきまして、委員の皆様のご意見はないか。</p> <p>意見なし</p>
事務局	<p>事務局案として、会長に前田眞委員、副会長に青木ルリ委員を提案する。</p>
委員	<p>異議なし</p>
会長 副会長	<p>就任あいさつ</p>
会長	<p>3. 議事</p> <p>(1) ボランティア市民活動推進協議会について 説明を事務局よりお願いする。</p>
事務局	<p>(資料②、③に基づき説明)</p>
会長	<p>事務局からの説明について質問はあるか。</p>
委員	<p>(質問なし)</p>

## (2) ボランティアセンター令和3年度事業計画について

- 会長 令和3年度のボランティアセンターの事業計画について、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 (資料④に基づき説明)
- 会長 事務局からの説明について質問はあるか。
- 委員 令和3年7月末日現在の企業ボランティアの登録数は11社となっているが、全体の登録人数は何人となっているのか。また、第3次計画の指標の進捗度はいくらいになっているのか。
- 事務局 令和元年4月から令和3年7月末までに新規で登録されたボランティアの数は656名である。この数には個人ボランティアに加えて、団体ボランティアと企業ボランティアの構成人数も含まれている。指標では、新規登録者1,000人を目指すこととしているので、進捗度は65.6%となっている。
- 会長 登録人数の一人ひとりが自発的に参加したい意思があることが望ましい。  
カウント方法については、企業の構成人数と個人登録は分けて考えていけたらいいなどと思う。説明を聞いて少し違和感があった。企業数をカウントする中で、ボランティアをしたいという人を個人でカウントすると実体的な数値が出るのではと思った。
- 委員 会長の言うとおりでと思う。そのことについては第4次ボランティア市民活動推進計画で話し合えたらいいと思う。
- 委員 先日、ボランティアを行っている企業に対して企業登録の紹介をしたところ、企業側からはこれ以上ボランティアはできないとの返答があった。ボランティア登録をすることにより、会社をより良くできるとお伝えしたが、これ以上のことを社員に求めることができないと言われた。
- 会長 県内でも市民向けの研修は多数開催しているが、企業向けの研修はあまり聞いたことがない。ボランティアと聞くと自発的に新たなことを実施するものと思われがちだが、今取り組んでいることでも十分社会に貢献されていることを認めていくことがあってもいいのかなと思った。社会貢献しているが気づかずに活動している企業も多い。  
これから企業が積極的になる中で自分たちの仕事の中で結果的にボランティアにつながるようになればいいなどと思う。
- 委員 ユニ・チャームが鹿児島県で紙おむつのリサイクル事業を進めているらしい。  
紙おむつのリサイクルは完全に社会貢献だと思う。
- 会長 そういった情報を集めて、高校生が関心を持つ企業に取材に行くことはいいことだと思う。例えば、ボランティア市民活動センターに企業がこんなことをしていると情報を寄せるといいのかなと思った。
- 委員 ボランティアという言葉が小学生や中学生の時に理解させて、これがボランティアだということ、これが人のためになるということの認識を作る。ボランティアをして

いる人は暇だという認識の方もまだ多くいる。知らない間に地域貢献をしてきている企業が登録をすることになるともっと余分なことをしなければならぬ、決められたことをやらされるのではないかとこの枠を取っ払うために何かアクションを起こす必要がある。

会長 ボランティアには正解がない。状況により変わってくる。常に活動していないとだめというわけではなく、状況に応じた対応の仕方が大事になってくると思う。毎日ではなく、非常時にはこういった対応ができるということを周知できればいいかなと思う。呼びかけ方を変えるとまた違った反応が出てくると思う。

委員 ボランティア市民活動センターを利用しなくても完結できる企業がある。そういった団体に企業ボランティアの呼びかけをするとプラスアルファが発生するのではないかと考える企業もある。登録をすれば市民交流棟の会議室の利用ができるなどの企業にとってプラスになるものがあると登録しやすいのではないかなと思う。先日、市報にアンケート用紙が挟まっていた。アンケートに答えると診断のようなものが確認できた。このように、市内企業にアンケートをとれるといいのではないかなと思った。

会長 チェックシートのようなものを作成し、チェックをすればその内容で登録できるという意見はすごくいいアイデアだと思う。企業登録用紙がチェックシートになっている、会社名とチェックをしている内容で登録できると取り組みやすいかもしれない。何をしたらいいかが具体的にわかるといいと思う。そうした工夫により企業登録に結び付けていけたらいいかなと思う。

事務局 企業ボランティアの登録時には、登録用紙に様々な分野の項目を記載しており、自分たちの企業の得意分野について示してもらっている。また、災害時にはどういった救援活動ができるのか項目を設けて把握させてもらっている。

ボランティア市民活動センターにニーズが来れば、登録用紙を確認して、ニーズの内容を得意とする企業やボランティア団体とのマッチングを成立させている。

会長 災害ボランティアの研修会について触れると、八幡浜市で実施されているのは、掲示板の情報共有会議というものを最近立ち上げた。災害が発生したら自分たちには何ができるのか、平時から顔の見える関係を作っておくという意味で取り組んでいる。

会議には、行政と社会福祉協議会のほか、NPOや企業（青年会議所、ライオンズクラブ等）などの団体が2か月から3か月に1回話し合いの場を設ける。

災害経験者や支援者の講演会も意識づけとしては必要だと思うが、各種団体の人達が災害発生時にはどのような活動ができるのか周知する意味合いとして、緊急支援の話もいいかなと思った。

大きな災害が起きると企業も被災者になる。

災害をイメージして、どのような支援が必要になるのか市民ボランティアで情報共有も含めて開催できるといいのかなと思う。

生活系のボランティアと産業系のボランティアでは微妙な違いがある。産業系のボランティアは国の支援が入りやすい。市民ボランティアをしてしまうと、公的な支援が受けられない場合がある。宇和島市では、ミカンの園地の泥を出すのに自分たちで先にしてしまうと、園地再園の費用がもらえなくなることがあった。様々な細かい規定があり、そこを理解していないと後でこんなはずではなかったとなるので事前の勉強がいる。そうしたことを研修の中に入れてもいいのではと思った。

### (3) SNS を利用した情報発信について

(資料⑤に基づき説明)

会長 SNS を活用した情報発信ということで、今回は Instagram を使って発信したらどうかといった提案があった。これについて、委員の皆様から何か案があればお願いしたい。

委員 1日1投稿と自分の中でマイルールを決めている。最初は、インターネットで情報を発信すれば怖いというイメージが強かった。まずは、自分の知り合いの人がシトラスリボンについて見てくれたらいいなと思い始めたところ、県外の全く知らない方から励ましの言葉をもったり、県外の方から教えてほしいという声もあったりした。さらには、文章をもっと多く書いてほしいというメッセージなどプラスのメッセージを多く頂いている。自分が、フォローしている数よりもフォローされている数のほうが多いので、知らない人のほうが多いが、優しい言葉をもらって励みになっている。今では Instagram や Facebook などの SNS をしてとてもよかったと思っている。

委員 私は SNS を使い分けており、Instagram は、子供との楽しいひと時を投稿するのに活用していて、完全にプライベートで利用している。Facebook は比較的同世代の利用者が多く、使用している SNS ではフォロワー数も一番多いので、よりたくさんの人に知ってもらいたい情報を掲載している。YouTube は動画で伝えたいことを中心に活用して、Twitter は日々のつぶやきレベルのものを投稿している。それぞれの属性に合わせて使い分けている。Instagram は特に、若い世代の女性ユーザーが多いというデータがあり、その世代や層にボランティアの輪を広げていく点で活用するのであれば素晴らしいことだと思う。企業ボランティアを推進していくとなると、決定権がある経営者の年代が多く活用しているのは Facebook のほうがいいのかと思う。ボラ7が発信すること自体に意義があるが、ボラ7自身が誰をどのように動かしたいかが大事になる。その点がまだ明確には見えてきていないので、その後に宣伝してもいいのではないかと思った。

会長 伝え方も含めて伝えたい人にどう伝えるのかという点で参考になる意見だった。他に意見はないか。

委員 ボランティアの活動内容だけに限定して Instagram を使用している。Instagram は県からの指定で利用してほしいということから始めた。私が活動している内容は、アフリカ音楽ということで、趣旨と違ったフォロワーができたりした。今は、あまり利用はしていない。目的に応じて情報を発信するということはすごく大事だと思う。

委員 ボラ7が発信する内容は、1度大人がチェックしてから情報を発信するのか。それとも、高校生がそのまま情報を発信するのか。

事務局 そこは、チェック体制を取ろうと考えている。ボランティア市民活動センターや地域振興課で投稿前にはチェックを行う予定である。ボラ7には、自分たちでルールを作ってもらいたいとお願いしている。利用する目的やターゲットとするユーザー層、投稿する内容まで自分たちでルールを作って自分たちで守りながら責任も持ちながら取り組んでほしいと考えている。

初めのうちは、ボランティア市民活動センターや地域振興課職員がチェックするようになりたい。今は、Instagram で検討しているが Facebook も連携が取れるようなので、企業ボランティアを推進するためにも Facebook を将来的には進めていけたらいいなと思っている。

会長

Instagram のフォロワーが 1000 人ほど、Facebook では 3300 人ほど友達がいるが、相手にどのようなことを伝えるかはあまり気にしていない。

Instagram に投稿すれば、Facebook や Twitter にも連携が取れるようにしている。重複した投稿を見る人もいるかとは思いますが、読者が好きな投稿を見ればいかなと思っている。反応があるわけではないが、普段やっていたことを自分向けに発信している。公的な発信としてみるのか、高校生独自の発信としてみてほしいかという思いで、高校生の言葉で発信していくのかしっかり考えたうえで発信すべきだと思う。高校生の生の声も非常に重要になると思う。速報性も考えたときに、そういった考え方も必要なのではと考えた。

委員

ボラ 7 も高校生なため、情報を即時に出すところにいるという情報が漏れてしまう。その点が少し怖い点だと思う。

会長

投稿を予告記事として出すのか事後記事にするのかやり方もあると思う。ボラ 7 については、写真も広報誌などに載っているので、どこまで大人が関与していいか微妙な問題ではある。

委員

ボラ 7 は非常に難しい立場の団体だと思う。行政といえば行政であり一般の高校生たちの団体でもある。できるだけ自由にさせてあげたいなとは思いますが、SNS の活動をするうえで批判的なコメントなども受ける場合がある。Instagram にコメントを制限できるような機能はあるのか。

事務局

コメントをオフにすることは可能。有名人や著名人がよく利用している機能で、いいねや共有のみにすることも可能ではある。

会長

他に意見はないか。  
なければ、その他について事務局より報告をお願いします。

事務局

#### (4) その他

(あったかなまちづくり活動支援事業を活用して実施する事業について紹介)

会長

議事は以上で終了したので、進行を事務局へ戻します。

課長

令和 3 年度第 1 回ボランティア市民活動推進協議会を閉会する。